

## 2018年度特許等登録状況(2018年その2)

種別	登録日	発明等の名称	出願日	共有会社 当社発明者
	登録番号		出願番号	
概要				

特許	2018/6/22	昇降式ホーム柵の 間隔調整機構	2014/5/16	(株)JR西日本テクシア 日本信号(株)
	6356482		2014-102287	(施)井上正文 内田秀明 平野雅紀
<p>本発明は、ロープを用いた昇降式ホーム柵の間隔調整機構に関するもので、防護柵部となる昇降する複数ロープの各間隔が簡単な機構により上下の各移動位置に応じて変化するように構成し、かつ安価なコストで機構を実現できる昇降式ホーム柵の間隔調整機構を有している。</p>				

特許	2018/7/20	電車線用直流電圧検出器	2014/12/25	長谷川電機工業(株)
	6370704		2014-262024	(電)大久保敬雄 川原敬治 山野井隆 (近統電)福光俊祐 棚池直輝
<p>本発明は、鉄道沿線に設置された電車線における直流電圧の有無を検出する直流電検出器に関するもので、その目的は、作業者が感度調整のために複数のスイッチを手動操作する必要がなく、梯子作業などの高所作業に適した電車線用直流電圧検出器を提供するものである。</p>				

特許	2018/7/27	車両の転落防止構造	2014/11/10	(株)ジェイアール西日本テクノス (公財)鉄道総合技術研究所
	6373169		2014-228246	(車)吉川智貴 吉岡健伸
<p>この発明は、車両間の隙間にお客様が転落するのを防止するための車両の転落防止構造に関するもので、2つの先頭車両を連結したときに、その連結部にできる隙間にお客様が転落するのを防止して安全性を向上を図った車両の転落防止構造である。</p>				

特許	2018/8/10	線路空間支障物検知 システム	2014/6/12	(株)ニシヤマ (株)エルゴビジョン
	6381981		2014-121390	(施)田淵剛 桶谷栄一 松本亮介
<p>この発明は線路空間支障物検知システムに関するもので、鉄道線路を走行する車両が衝突あるいは接触する恐れのある支障物を検知して、車両と支障物との衝突あるいは接触を未然に防止することを目的とし、線路空間における支障物の有無を定量的に評価でき、営業列車を用いて建築限界内の支障物の有無の検知ができる線路空間支障物検知システムである。</p>				

種別	登録日	発明等の名称	出願日	共有会社 当社発明者
	登録番号		出願番号	
概要				

特許	2018/8/31	車両速度検出装置および該装置を搭載した車両並びに列車	2014/12/26	(株)日立製作所 (車)山下高賢 島田直人 池口信行 原津裕之
	6391463		2014-264983	
<p>本発明は、車両に設置したセンサを用いて車両速度および走行距離の演算を行う車両速度検出装置および装置を搭載した車両並びに列車に関するもので、走行する線路の路面状態の影響を抑制し、ミリ波の反射波を安定して検出することにより、車両速度と走行距離を正確に算出する装置である。</p>				

特許	2018/9/7	排障器	2014/6/27	当社単独 (車)鈴木和馬 田邊尚紀 柏木啓太 楠本千年 河野勉 藤本二生
	6397666		2014-132039	
<p>本発明は、鉄道におけるレール上の障害物を排除するための排障器に関するもので、排除する障害物の軌道外側方向の飛距離を低減して、排除した障害物の飛散による鉄道沿線被害を防止することを目的とした排障器である。</p>				

特許	2018/9/14	速度演算を用いて加算制御を行うブレーキ制御装置	2015/3/3	三菱電機(株) (車)今村洋一 島田直人 山中章広 宮部実
	6399519		2015-041070	
<p>この発明は、鉄道車両のブレーキ制御装置に関するもので、鉄道車両の速度が目標速度より大きい場合にブレーキ力指令値を増大させることで、ブレーキ制御の精度を向上させて、ホームなどの適正な位置への停車を可能とするものである。</p>				

特許	2018/9/14	移動量付与治具	2015/1/26	(株)山崎齒車製作所 広成建設(株) (小倉幹保)糸永由紀英 (福山幹保)小野隆 (三原幹保)安岡秀幸 福田康佑
	6400495		2015-011973	
<p>本発明は、スラブ軌道の通り整正作業において、レールに横方向の移動量を付与するための移動量付与治具に関するもので、この移動量付与治具によれば、ねじの回転によって押し具を変位させてレールに移動量を付与するので、作業者の経験によらず、容易にレールに高い精度の移動量を付与することができる。また、押し具の変位によってレールの底部側面を押すので、鉄道バールでレールを押す作業が不要になるほか、レールの小返り状態を防止する効果が得られる。</p>				

種 別	登 録 日	発 明 等 の 名 称	出 願 日	共 有 会 社
	登 録 番 号		出 願 番 号	
概 要				

特 許	2018/9/14	ブレーキの制御システム、 粘着係数算出方法、最大ブ レーキ力算出方法及びコン ピュータプログラム	2014/8/5	国立大学法人東京大学
	6401540		2014-159320	(技開) 影山真佐富 谷本篤嗣 古賀進一郎

本発明は、鉄道車両のブレーキを制御するための制御システム、その制御システムに用いられる粘着係数算出方法、その粘着係数算出方法を利用した最大ブレーキ力算方法及びその粘着係数算出方法に基づくコンピュータプログラムに関するもので、この制御システムは、滑走の条件が最も厳しい短編成の軽量車両の高速運転において滑走防止効果が得られるほか、短編成に関わらず、編成長、運転速度及び車両重量の異なる条件でも幅広く適用可能である。

### 特許等を取得する場合の注意点

JR西日本グループでは、研究・開発活動等で得られた成果を、特許等の取得を通じて、広く一般に発信し、鉄道の進歩と発展につなげることを目的として、その取得を推奨しています。

しかし、そうした成果を学会等での発表、関係機関誌への投稿およびホームページに掲載するなど、**発明者以外への公表は、特許等の要件の一つである、新規性を喪失することになり、特許等を受けることができなくなる可能性があります**。従いまして、業務範囲に属する事項で発明等を実施し、特許等を受ける動きがありましたら速やかに、下記窓口までお問い合わせ下さい。

<特許等に関する問い合わせ窓口>

鉄道本部 技術開発部 企画・開発支援(知財戦略) JR: **071-5616** NTT: **06-6375-2130**